

ἐκκλησία

エクレシア

知っておきたいキリスト教のことば (57)

共同体 きょうどうたい

「共同体」という言葉は、新約聖書(新共同訳)には出てきません。しかし旧約聖書には何箇所か出てきます。そして旧約聖書の中で共同体と訳されたヘブライ語「カーハール」のギリシア語訳は、「エクレシア」です。

この「エクレシア」は、新約聖書(新共同訳)では「教会」と訳されていますので、教会と共同体とはかなり近い関係にある語だといえます。

さて、「共同体」とは、共通の利益を持つ集団をあらわします。一般には、地縁や血縁、社会的な人間関係を基盤として形成された集団です。

しかし、旧約聖書では、神さまとの契約に基づき、神の民となるために呼び集められた人々を指して「共同体(カーハール)」と呼びます。ヨシュア記 24 章 24 節には「シケムの契約」の場面が出てきますが、ここでイスラエルの民は、「わたしたちの神、主にわたしたちは仕え、その声に聞き従います」と神さまに誓います。その結果、イスラエルの民は神さまと契約を結び、宗教的な共同体とされたのです。

また新約聖書では、イエス・キリストの出来事を通して神さまに招かれ、イエス様を主として告白した人々の集まりを「エクレシア」と呼びます。聖書の訳では「教会」ですが、それはすなわち「キリストの共同体」といえるのです。

わたしたち一人ひとり、イエス様のみ名において集まり、共に歩んでいます。それぞれがキリストの体の枝として、生かされているのです。そしてわたしたちは、神さまと個人的なつながりだけではなく共同体の一員として神さまと関わっていることも、忘れないでいたいと思います。

次回は「キリエ」です。お楽しみに。



「アイオナ共同体」

モーセが主の命じられたとおりに行くと、共同体は臨在の幕屋の入り口に集まった。

(レビ記 8 章 4 節)

